



ハ
ン
ス
ク
ー
リ
休
日

下
着
無
三
し
は
だ
か
の

DOJIN
R18
成人向け
16歳未満の
購入・閲覧禁止

股間にやわらかい感触を感じて目が覚めた。
「あ…起こしちゃいました?」
シートにもぐりこんでいた千雪が、
そのたわわなおっぱいで
俺のモノをはさんでくれている。
「あの…千雪さんそれは…?」
「ふふ♥おはようのちゅーならぬ…
おはようのパイズリです♥」

おはよう
パイズリ♥

「朝からすっごく硬くなってたから……
可愛くてつい♥」
「……男の生理的にそういうもんなんだけど……
まあ気持ちいいから……いいか」
「すごいね……昨日あんなにしたのに……」
「昨夜の情事を思い出して、ペニスがぴくんと脈打つ。
「あ……♥ふふ♥お世話してあげるね……」
千雪は乳房を肉棒にこすりつけはじめた。

たっぴ

たっぴ

たっぴ

たっぴ

「気持ちいいよ……」
まどろみの中、やわらかな乳房で肉棒をなぜられる。
朝勃ちした鋭敏なちんぽで千雪のおっぱいを味わう。
むっちりとやわらかい。

「あったかいね……♡」
布団の中は二人の体温で汗ばむほどで、
汗と愛液で性的な匂いが充満した。
布団にくるまり、千雪に密着され……
この上なく気持ちがいい。

「あっ……！」
やばい。熱いものがのぼってきた。

「千雪……待って……っ」

「いいよ……このまま出して♡」

「全部受け止めるから……♡」

「ムシクシク」

「ムシクシク」

「ムシクシク」

「あ」

「あ」

「あ」

「あ」

「ムシクシク」

「ムシクシク」

「ムシクシク」

「あ」

「あ」

射精を許された俺は千雪の胸の中で射精する。
起き抜けのまどろみの中、千雪の乳房につつまれ
精を放出する。気持ちがいい。「出てる……♡」

千雪が俺の目を覗き込んでくる。

「あったかい……♡」

射精している間もむっちりとしたおっぱいで肉棒を
しっからはさんでくれていた。

乳房の中の陰茎は快感の射精を続ける。

「あっ……ああ……っ！」

「すごいね……♡」

「たくさん出たね…♥」
俺は千雪のおっぱいの中で果てた。
谷間が俺の白い精液で汚れていた。
白濁したそれは熱く泡立ち、
布団の中に濃い匂いを充満させていた。
「気持ちよかったですか？」
「うん…」
天にも登るような心地だ…。
「今日はいっぱいお世話してあげますね…♥」
今日は楽しい一日になりそうだ。



「ごめん千雪…お願いできるかな…」
裸エプロンに欲情した俺のチンポを、
千雪は優しくおっぱいはさんでくれた。
「お料理中にもいつも甘えたくなるなんて…
小さなこどもみたいですね♡」
そう言われて、少し恥ずかしくもあり、嬉しくもある。
「いいですよ…お世話してあげますね♡」

チンポ♡



「おっぱい気持ちいい?」

「うん...うん...気持ちいいよ...」

卑猥な音がキツチンに響く。

やわからな乳房に肉棒をしごかれる。

「いつでもどうぞ...♥」

大きな乳房がふとももの付け根にまで押し付けられ、快感がこみ上げる。やわらかくて温かくて

「いいよ...♥」

ちんぽに密着したおっぱいはむっちりとして、

すいつくようにいい感触で...

「出して...♥」

ちんぽをしごくスピードが上がる。

「千雪っ...出すよ...!!」

くっ

くっ

くっ

くっ

くっ

くっ

くっ

くっ

くっ

あ

「千雪っ……! ああっ……!」
俺は千雪のおっぱいの中で激しく射精した。
「あっ……♡ すごい……♡」
勢いよく飛び出た精液が千雪の顔にかかる。
「あっ……ごめんっ……!」
「いいの……♡」
千雪のきれいな顔が俺の精液で汚れていく。
「たくさん出して……♡」
「いっぱい出していいからね……♡」

おっぱい

バック

バック

バック

バック

バック

バック

「ふふ♥気持ちよかった…?」
「うん…:すごく…」
千雪は胸も顔も俺の精液でべとべとになっていた。
「びくびくおさまるまでこうしてあげるね♥」
射精後の快感の余韻が残るまま、
敏感になったちんぽを優しく包みこんでくれた。
ちんぽが幸せで蕩けそうだ。
「勃起おさまらないね…♥どうしちやったのかな…♥」
「もう一回してもらえばおさまるかも…」
「ふふ♥甘えん坊さんだね♥」
もっと千雪に甘やかしてもらおう…。



「んっ……」
泡だてた谷間に、ビンビンに勃起した
チンポをつっこむ。
「お加減いかがですか？」
さっきまでお風呂に入ってた千雪の谷間は
濡れていてあたたかい。
泡がぬるぬるとからみつき気持ちがいい。
「お風呂入るより気持ちいいよ……」
「もう……えっっち♡」

毛

ほか

ぬ

尻

ほか

すっ♡



「洗ってあげますね…」

浴室に卑猥な音が響く。

泡々の谷間はすべすべだ。

「気持ちいいよ…」

鏡に映ってる大きなお尻を

こっそり盗み見て興奮した。

「あれ…？また硬くなった♡」

快感がこみ上げる。

「興奮しちゃったの？可愛いね…♡」

「ここならどれだけ汚しても大丈夫だから」

泡と汗とお湯と我慢汁でぐちゃぐちゃにいらった

ちんぽを容赦なくせめたてる。

「いっぱい興奮して…♡泡々おっぱいの

あったか谷間にたくさん射精して…♡」

おっぱい

ちんぽ

俺は千雪の乳房の中で勢いよく射精した。
「あったかい……♡」
谷間から白い白濁したものが泡に混じって
ドクドク溢れだす。
「すごいね……いっぱい出していいからね……」
射精は止まらない。
「千雪のぽかぽか泡おっぱいで
気持ちよく出してね……♡」



「いっぱい出たね…そんなに気持ちよかった？」
お風呂場で何も気にせずにする射精はただただ快感だった。
「まだ出てる…♡」
谷間の中でちんぽがびくびく痙攣していた。
千雪にも興奮が伝染したのだろうか。
鏡の中で股から愛液をたらしていた。



はあ

はあ

はあ

はあ

千雪がソファで寝ていた。
すやすやと愛らしい寝息を
たてている。
その寝顔を見て…欲情した。

服を脱がすと白く大きな乳房が姿を表す。
ぶつくりとした乳首が悩ましそうに揺れている。
「大きい…」
ごくりとつばを飲み込む。
俺は屹立した肉棒を差し込んだ。
「んっ…」
あたたかく少し汗ばんでいる。
「やわらかっ…」

5420

31

31

我慢できず、腰を振る。

「千雪…気持ちいいよ…」

腰を打ち付けるたび、おっぱいが
ぶるぶると揺れ動き、ももの付け根に
乳房が当たりやわらかい感触がする。
「千雪のおっぱいやわらかいよ…」

気持ちいい。

「千雪…大好きだ…」

快感を求めて肉棒をさらに早く
動かす。

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

「もう…恥ずかしいですよ…」
千雪を起こしてしまった。
「起きてたの…!」
「いいよ…出して…♥」
「でもいっぱい好きって言って…♥」
もう止められなかった。
千雪の胸にはさんだ肉棒は快感を蓄え、
絶頂に上り詰める。
「出して…♥」



「千雪…好きだ…！」
愛の言葉とともに精液を吐き出す。

「好きだ…！好きだよ…！」
熱い精液が千雪にかかる。

「もっと…♡」

千雪のきれいな顔が俺の精子で汚れていく。
「もっとください…♡」

「好きだ…！好きだ…！」

俺は狂ったように射精した。

千雪に精子をいっぱいかけてあげたかった。

精液で彩られた千雪は恍惚としていて
うるんだ瞳が俺をじっと見つめていた。



「千雪…パイズリして…」
「はい♡こっち来て…♡」
千雪の大きなおっぱいに
硬くなった肉棒が包まれる。
やわらかい…っ

「プロデューサーさんは本当に
おっぱい大好きですね♡」
「うん…」
その言葉にされると恥ずかしい。
「ふふ♡赤ちゃんみたいですね…♡
よしよし♡私のおっぱいで
いっぱいお世話してあげますね♡」



「どうっ？おっぱい気持ちいい？」
千雪が大きな乳房で肉棒をしごいてくれる。
おちむちの谷間はちんぽにぴったり吸着し、
すべすべでやわらかく…心地がいい。
「気持ちいいよ…」
もっと…もっと激しくして…！」

おちむちの摩擦が強くなる。
快感が駆け巡る。
「出していいですよ…♡」
一層パイズリが激しくなる。
目の前で巨乳がぶるぶると揺れる。
熱いものが先端へのぼってくる。
「出して…♡」千雪が甘くささやく。
「出して♡」
おちむちおっぱいの中で出して♡
むらむら精子いっぱい射精して
もっと気持ちよくなる♡」



「ああっ……!」
俺は千雪のおっぱいの中で射精した。
「すごいよ♡出てる♡出てる♡」
その間もパイズリを続けてくれる。

鉄のように硬く熱くなった肉棒は
精液を吐き出し続ける。
「カチカチのおちんぽからあつ〜い
ねばねば精子♡びゆるびゆる出してね♡」
「射精している間もしっかり
シゴいてあげるから♡
やわらかおっぱいまんこの中で
たくさんたくさん精子出してね♡」

いっしょに
おっぱい

いっしょに
おっぱい

いっしょに
おっぱい

「いっぱい出たね…♡すごいね…♡」
俺は千雪のおっぱいの間で果てた。
「よかった…？」
「うん…」
「そう♡」
俺から精液をしぼりとった千雪は満足そうにうっとりしていた。

「今日は一日パイズリしてもらってありがとう…」
「ふふ♡いっぱいお世話できて嬉しかったですよ♡」
射精の余韻の快感とともに疲労が襲い…眠い。
「おつかれさま♡今日はいっぱい射精したね♡
これで今日はぐっすり眠れるね…♡おやすみ♡」





マリオRPG リメイクの ピーチ姫 がかわいい た!!

ここリメイクしてほしかったところ

2023年はゲームが豊作な一年でした。
リメイク版マリオRPGはキャラクターがみんな
イキイキとして楽しかったですね！
ピーチ姫がとても可愛くなって、ずっとスタメンでした。
(消費MP 4 でベホマズン、2 でザオリクは強すぎィ！)

さて、この本をとっていただきありがとうございました。
ゆまはパイズリが好きでな…千雪のでっかいおっぱいには
はさまれたいと思って作りました。楽しんでいただけたら
幸いです。ではまた！よいお年を！

ゆま

発行者	ダークネスゆま	発行日	2023.12.31	X	@yuma696
発行元	デンパツーシン	印刷	(有)金沢印刷	pixiv	1823775
				mail	yuma7283@gmail.com

デンパツーション

